慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	貨物の価格と物価の平準との関係
Sub Title	
Author	高城, 仙次郎
Publisher	三田学会
Publication year	1913
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.7, No.2 (1913. 4) ,p.317(101)- 354(138)
JaLC DOI	10.14991/001.19130422-0101
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19130422-0101

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

of custom" has already begun to repress the more expansive minds, and with this nation as with all others, either progress much cease or the confining bonds be broken. The former implies decadence, the latter revolution. Before the strain becomes too great clanism ought to be destroyed so that the people may pass on toward the goal of all political progress, complete self-government.

In that progress there will arise a long sequence of difficult problems demanding solution, but with a government resting upon the support of a politically free people, and led by a Monarch, loyalty to whom is an article of religious faith, no problems need be feared. With the manhood of a people preserved and developed by the free exercise of its faculties in all directions, no nation need dread what the future has in store.

貨物の價格と物價の平準との關係

高城仙次郎

目次

一、緒言
二、交換の媒介物
三、貨物の價格
四、物價平準(過渡時代)
五、物價平準(貨幣經濟)
六、物價平準(名目貨幣流通の場合)
七、結論

一、緒言

抑も價格とは二箇の貨物の間に於ける交換の比例を謂ふ。例へば米一石と衣服一著とが交換せられたりとせば、米の價格は一石に付衣服一着なりと云ひ得べく、或は又衣服の價格は一着に付米一石なりとも云ひ得べし。現時各文明國に於

ては、無數の貨物間に於ける交換を容易ならしめんが爲めに、貨幣と稱するものを交換の媒介物として使用せるを以て、各貨物の價格は從つて貨幣の單位を標準として言ひ顯さるゝを常とす。例へば、我國に於て米の價格を一石に付衣服一着又は靴二足なりと云はずして、金何圓と云ふが如し。然りと雖も、價格は必ずしも常に貨幣を以て言ひ顯すことを要せざるものなり。或地方に於ては農夫は野菜を提供して糞尿と交換することあり。此場合に於ける糞尿の價額は一荷に付大根何本と云ふことを得べし。但し價格を言ひ顯すときに貨幣單位を標準として用ゆるの便なるは茲に贅言するの要なし。

次に物價平準とは一言以て之を蓋へば各種物價の騰落の平均を云ひ、之に依りて物價が一般に騰貴せるか、將た下落せるかを知ることを得るなり。物價は又今日皆貨幣の單位を標準とせるものなるを以て、物價が一般に騰貴せるときは貨幣の價値が下落せるものにして、物價が一般に下落せるときは、貨幣の價値が騰貴せるものなることは茲に喋々するの必要なき所なり。

前者卽ち價格に就きては精密なる研究を試みたる者尠からず。クルノー(Cournot: Recherches sur les Principes mathématiques de la théorie des richesses)、ジヱボンス(Jevons: Political Economy)、メンガー(Menger: Volkswirtschaftslehre)、ワルラー(Walras: Economie Politique pure)、ヲッセン(Gossen: Entwickelung des Gesetz des Menschlichen Verkers)、アウスピッツ及リーベン(Auspitz und Lieben: Untersuchungen uber die Theorie des Preises)、マーシヤル(Marshall: Principles of Economics)、フィシヤー(Fisher: Mathematical Investigations in the Theory of Value and Prices)等の研究は共に經濟學の進歩に貢獻する所尠からず。又物價が最近に於て一般に騰貴せるの結果、物價の平準も大に學者の注意を惹くに至り、之が變動の原則又は原因を研究する者輩出するに來れり。其中にて、アシレー(Ashley: The Rise in Prices and the Cost of Living 及び Gold and Prices)、レイトン(Layton: an Introduction to the Study of Prices)、フィシヤー(Fisher: The Purchasing Power of Money)等の研究は最も重要なるものなりとす。

斯くの如く、價格並に物價平準に關しては學者は競ふて精密なる研究を怠らざるに、各貨物の價格と諸種の貨物の有せる價格の騰落の程度を平均せるもの卽ち物價平準との關係に就きて研究せる者は誠に尠し、少くとも此關係を明確に論述

せるもの殆んど無しと云ひ得べし。普通の經濟學原論にては交換論に於て先づ主觀的價値を論じ、次に價格を說き、轉じて貨幣を論ずるに至りて物價平準に關して說述する所あるも、價格と物價平準との關係に就きては一言之に說き及ぼすことなきの常なり。今日經濟學者の大多數は貨物の價格が其貨物の限界効用に依りて定まり、物價の平準は貨幣の數量の增減と反比例に騰落するものなるを信ぜるが如くなるも、此兩原則の關係に就きて明確なる說明を與へざるは何故なるや。

予は本論に於て價格又は物價平準其物に就きて殊に云々せんと欲するものに非ずして、本論起稿の目的は此兩者の關係に對する愚見の一端を述べ、次て上記の缺陷に對して讀者の注意を惹かんと爲すにあり。吾人は敢て缺陷と云ふ。如何となれば、價格は限界効用に依りて定まり、物價の平準は貨幣の數量に依りて定まると云ふが如く、價格と物價の平準との說明の爲めに各々異れる方法を用ゆるを常となすの結果、兩者の關係は曖昧となり、價格は限界効用に依りて定まるものなりと信ずる者すら、時には貨幣數量說を疑ふことあればなり。最近に於けるが如く、外國に於ては金產出の激增の爲め、我國に於ては紙幣增發の爲め、物價が暴騰しつゝある際には、貨幣數量說が、國民全體、殊に爲政者に依りて正確なりと認めらるることは緊要なりとす。

二　交換の媒介物

價格と物價平準との關係を述ぶるに先ち、交換の媒介物の性質を明かにせんが爲めに、吾人は玆に甲、乙、丙、丁の四人より成る一社會を假想し、甲、乙、丙、丁共に各々一種類の貨物を所有し、且つ各々他の一種類の貨物を需用せるものと假定すべし。

卽ち甲は米を所有し、且つ衣服を入手せんと欲し、乙は衣服を所有し、且つ牛を入手せんと欲し、丙は牛を所有し車を獲得せんと欲し、丁は車を所有し米を入手せんと欲す。此關係を表にて示せば左の如し。

個人	所有品	需用品
甲	米	衣服
乙	衣服	牛
丙	牛	車
丁	車	米

此場合に甲は自己の需用せる衣服を入手する爲めに、都合三回の交換を行はざるべからず。如何となれば、衣服を所有せる乙は米を需用せざるを以て、甲は先づ米を需用せる丁に米を提供し、車を受取り、次に車を入手せんと欲せる丙に車を提供して牛と交換し、更に牛を需用せる乙に牛を提供して茲に始めて乙の所有せる衣服を讓り受くることを得べければなり。衣服を所有し牛を需用せる乙も、牛を所有し車を需用せる丙も、又は車を所有し米を需用せる丁も、他の個人が自己が、交換せんと欲するときに、自己の欲せる分量の交換を提議すればいざ知らず、然らざれば、一物を得る爲めに各々三度の交換を行はざるべからず。假令一歩を讓りて、各個人が交換を希望せる時刻が一致するとも、各個人が悉く同一價値を有せる物の交換を望むことはあり得べからざるものなり。又、米は一石、一斗、一升、一合、一勺等種種の單位を用ゆることを得るの結果、米と交換せらるゝ貨物が値の高きものなりとも又低きものなりとも、交換に不便を感ぜざるも、衣服、牛、車等の貨物は各々一個、卽ち衣服は一着、牛は一頭、車は一臺を以て單位と爲すべく、之を分割して、衣服半着、牛五分の一頭、車十分の一臺等の如き單位を用ゆること能はざるを以て、衣服、

牛、車等と交換せらるゝ貨物は少くとも、此等の貨物と同等の價値を有せざるべからず。加之、此等の貨物以上の價値を有せる貨物にても、其價値は此等の貨物卽ち衣服等の價値の倍數たるを要す。如何となれば、車が或る他の貨物と交換せらるるに當り、其貨物と車一臺半と交換することを得ずして、必ず車一臺、又は二臺等の比例ならざるべからざるを以て也。

然りと雖も、若し米の如き少量に分割し得る貨物を交換の媒介物として用ゐ、乙、丙、丁共に先づ自己の所有せる貨物を米と交換し、此米を貯藏し置かば、何時にても米を提供して自己の欲する貨物を容易に入手することを得べし。是れ卽ち不便なる物々交換が便利なる貨幣交換に移るの順序なり。

三　貨物の價格(物々交換)

前項に於て吾人は米、衣服、牛及び車の四個の貨物が存在せるものと假定し、其所有者は之を相互間に交換せるも、直接の交換は不便多きを以て、米を交換の媒介物と爲し、貨物を間接に交換すと假定せしが、各其の交換の比例、卽ち價格に對して何等言及せる所無かりしも、本項に於ては簡單に之が説明を試みんと欲す。勿論緒

言にも述べしが如く、本篇の目的は價格論を説述するにあらで、價格と物價標準との關係を説明するに在るを以て、精密なる説述は之を他日に讓るべし。

今假りに或社會に米、林檎、牛肉及び鷄卵の四種の貨物在りて、此等貨物の數量及び相互間に於ける交換比例を左の如くなりとせよ。

貨物	數量
米	一萬石
林檎	一萬個
牛肉	一萬斤
鷄卵	一萬個

交換比例（第一表）

米一合	林檎二個	牛肉十二匁	鷄卵一個
林檎一個	米五勺	牛肉六匁	鷄卵半個
牛肉一斤	米一升	林檎二十個	鷄卵十個
鷄卵一個	米一合	林檎二個	牛肉十二匁

米一合が林檎二個と交換せらるゝは米を提供する者に對する米一合の効用と林檎二個の効用とが略相同じく、且つ林檎を提供する者に對しても此兩者の効用が約一致せるを以てなり。此場合に提供する貨物の効用が交換せらるゝ貨物の効用よりも稍大なるは勿論なり。他の貨物に就て云ふも亦同じ。

而して貨物の効用は其貨物に對する欲望に依りて定まるものにして、所謂主觀的評價是れなり。而して欲望は貨物に於て人が客觀的に認むる用役と其貨物の數量とに依りて定まるものとす。人が貨物に於て客觀的に用役を認むるとは、例へば空氣が吾人に取りて必要なる生理上の役を爲し、又應擧の掛圖が吾人の美感を滿足せしむるものなるを人が認むることを云ふ。而して前者卽ち空氣の供給は無限なるを以て、吾人は之に對して客觀的用役は認むるも、主觀的の欲望を有せず。之に反して、應擧の掛圖の數には限りあるを以て、之に對しては客觀的用役を認むると同時に主觀的欲望を有す。されば、吾人が或る特定の貨物に於て認むる用役が一定不動なる場合に其數量增加せば、其の効用は減退すべく、又數量減少せば其効用は增加すべし。之と同じく、其數量は一定不變にして、吾人が認むる客觀

的用役增加せば、其効用は增加すべく、又之に反して客觀的用役減少せば、其効用は減退すべし。

此理を前揭の例に適用して、假りに米、林檎、牛肉及び鷄卵に於て人の認むる客觀的用役に何等の變化なく、且つ米、林檎及び鷄卵の數量は依然舊の如くなるも、牛肉の數量のみが突然一萬斤より二萬斤に增加せりとせば、牛肉に對する欲望に變化を來たし、延ひて其効用は減退すべく、從つて米、林檎及び鷄卵間に於ける交換比例には何等の異動なきも、此三種の貨物と牛肉との間には一大變化を生ずべし。此際に於ける實際的變化は正確に知るに由なけれども、大略牛肉の効用は半減し、其の交換比例は左の如くなるべしと想像するを得べし。

交換の比例（第二表）

米一合	林檎二個	牛肉二十四匁	鷄卵一個
林檎一個	米五勺	牛肉十二匁	鷄卵半個
牛肉一斤	米五合	林檎十個	鷄卵五個
鷄卵一個	米一合	林檎二個	牛肉二十四匁

即ち他の貨物間の交換比例は舊の如くなるも、牛肉のみが以前の二倍の分量にて交換せらるゝを見る。次に數量には何等の變化なく、又米、林檎、鷄卵に於て人が認むる客觀的用役には何等の變化なきも、若し肉食の弊害に對する議論盛んと爲り、人が牛肉に於て認むる客觀的用役に影響を及さば、牛肉の効用は減退するに至るべし。假りに此際に効用が以前の四分の一となりたりとせば、第一表は左の如く變更せらるべし。

第三表

米一合	林檎二個	牛肉四十八匁	鷄卵一個
林檎一個	米五勺	牛肉二十四匁	鷄卵半個
牛肉一個	米二合五勺	林檎五個	鷄卵二個半
鷄卵一個	米一合	林檎二個	牛肉四十八匁

此理は牛肉以外の貨物の數量若しくは客觀的用役に變化を生じたるときにも應用せらる可きものにして、凡そ此場合には牛肉の例に於けると同一の結果を齎すべし。

要するに各貨物の價格は各貨物間に於ける交換比例にして、其交換比例は各貨物の効用に依りて定まり、効用は客觀的用役と數量とに依りて定まるものなれば、或る特定の貨物の客觀的用役若しくは數量に變化を生ずることあらば、其貨物と他の貨物との交換比例に變動を來すに至るなり。若し各貨物の客觀的用役が悉く同一程度に、變更し數量に何等の異動なきか、又は客觀的用役に何等の變動なくして、數量が悉く同一比例に增減せば、各貨物間に於ける交換比例は時には全く變動せざるべく、又變動するとも、數量の增減が激甚ならざる限りは、其變動は輕微のものたるべし。（各貨物の數量が同比例に增減するときと雖も、其變動の程度の如何に依りて、各貨物間に於ける効用變動の比例が同一ならざる場合あるべし。例へば、米の如き比較的腐敗し難き貨物は其數量激增するとも、其効用が零に近き迄下落することは罕なるべけれども、鷄卵の如き腐敗し易き貨物の數量が激增するときは其効用は俄然暴落して、或は零となることあるべし。以下本論に於て貨物の增減を假定するに當りて、論旨を簡明に爲すの目的を以て斯かる貨物の激增の場合を除外すべし。）

然りと雖も、各貨物に對して人が認むる客觀的用役が同一程度に增減し、又は各貨物の數量が同一比例に增減することを理論的に假定するは毫も誤れるものに非ざるも、實際には斯かることの發生することなく、從つて實際の社會に於ける貨物の交換比例は常に、一高一低して止むときなきなり。例へば、米に對して日本人が認むる客觀的用役は常に變ることなけれども、米の在荷の高寡に依りて米の市價は殆んど毎日變動しつゝあり。又牛肉の在荷は同一年度を取らば、冬期に於ける方夏期に於けるよりも多量なるにも拘はらず、冬期に於ける牛肉の市價は夏期に於ける市價よりも高率なり。其理由は冬期に於て人が牛肉に認むる客觀的用役が夏期に於て認むる客觀的用役よりも大なるを以てなり。

四　物價平準（過渡時代）

前項に於て各貨物間に於ける交換比例卽ち貨物の價格が如何にして決定せらるゝものなるかを略述したりしが、今や吾人は進んで物價平準は如何にして決定せらるゝものなるやに論及し、貨物の價格と物價平準との間に於ける關係を示さんと欲するものなり。然りと雖も、物々交換より直ちに今日の貨幣經濟に移りて

吾人の説明を試みるは其方法簡に失して、説述明瞭を缺くの虞あるを以て吾人は先づ貨物の中一種が交換の媒介物として使用せらるゝ過渡期の經濟組織に於ける價格と物價平準との關係を説かんと欲す。

第二項に於て論じたるが如く、物々交換は種々の不便あるを以て、貨物の中一種が遂に交換の媒介物として使用せられ、他の貨物は皆此貨物を通じて間接に交換せらるゝに至るを通則とす。此交換の媒介物として用ゐらるゝ貨物は社會を構成せる各個人の少くとも大多數が尊重せるものにして、何時にても貨物の代償として受取ることを拒まざるものたらざるべからず。是れ各國に於て最初に用ゐられたる交換の媒介物が其國に於ける重要産物たりし所以なり。

吾人は本項に於ても前項に用ゐたる例を再び使用し、假りに米が交換媒介物として流通するに至りたりとせん。此場合に於て以前單に消費財としての客觀的用役を認められたる米は今や消費財以外に交換媒介物としての客觀的用役を認めらるゝに至るべければ、米の數量に變動なき限りは、米の効用は增加し、米と他の貨物との交換比例は變更せらるゝに至るべし。今假りに米の効用二倍せりとせ

ば、前項の第一表は左の如く變化すべし。

交換比例（第四表）

米一合	林檎四個	牛肉二十四匁	鷄卵二個
林檎一個	米二勺半	牛肉六匁	鷄卵半個
牛肉一斤	米五合	林檎二十個	鷄卵十個
鷄卵一個	米五勺	林檎二個	牛肉十二匁

卽ち米のみ其交換比例を異にし、他の貨物間に於ける交換比例は舊の儘なりとす。然りと雖も、今や各貨物は必ず米と交換せられ、其他の貨物と直接に交換せられざるなり。林檎を所有せる者が鷄肉を求めんと欲せば、鷄卵を所有せる者に林檎を提供して鷄卵を讓り受くるに非ずして、林檎を以て米と交換して、然る後更に米を提供して鷄卵を換るものなれば、林檎と鷄卵との間に於ける直接的交換比例を知るの要なし。されど、之に反して、米と林檎との交換比例幷に米と鷄卵との交換比例を知らざるべからず。他の貨物卽ち牛肉に就きて云ふも亦同じ。要するに今や各貨物が交換せらるゝときは必ず其敵手貨物は米なるを以て、從つて各貨

物の交換比例は米との交換比例を意味することゝなれり。されば、各貨物の交換比例を知るには第四表の如き複雜なるものを要せず、左の如き各貨物の價額を米にて言ひ顯はしたる至極簡單なるものにて事足るべし。

交換比例（第五表）

林檎一個	米二勺半
牛肉一斤	米五合
鷄卵一個	米五勺

此場合に於て米の價格は表に加ふるを要せざるなり。如何となれば、米一升の價格は矢張り米一升なればなり。而して若し米、林檎、牛肉、鷄卵の客觀的用役幷に米、林檎及び牛肉の數量に何等の變動なく、單に鷄卵の數量のみ二倍となれりと假定せば、第五表は左の如く變更すべし。

交換比例（第六表）

林檎一個	米二勺半
牛肉一斤	米五合
鷄卵一個	米二勺半

若し又米のみ其數量倍加せば、第五表は左の如く變更すべし。

交換比例（第七表）

林檎一個	米五勺
牛肉一斤	米一升
鷄卵一個	米一合

第六表に於ては鷄卵の價格のみ變動し、第七表に於ては、各貨物の價格は悉く變動せり。從つて其變動の平均は同じからず。即ち第六表に於ける變動平均は左の如し。

	舊價（第五表）	新價（第六表）	百分比例
林檎一個	二勺半	二勺半	一〇〇
牛肉一斤	五合	五合	一〇〇
鷄卵一個	五勺	二勺半	五〇
平均			八三

卽ち各貨物の舊價を百とすれば、舊價に對する新價の百分比例の平均は八十三なり。斯くの如く舊價に對する新價の百分比例の平均が騰落する事を物價平準の騰落と云ふ。又斯くの如く、物價(諸種の貨物の價格)が下落(平均に)せるは米の價額が騰貴せるものと見る事を得べく、又米の購買力が增加したりとも云ひ得べし。

次に第七表に於ける交換比例變動の平均は左の如し。

	舊價(第五表)	新價(第七表)	百分比例
林檎一個	二勺半	五勺	二〇〇
牛肉一斤	五合	一升	二〇〇
鷄卵一個	五勺	一合	二〇〇
平　均			二〇〇

卽ち物價平準二倍せり。換言すれば、第五表を標準と爲し、其表に於ける各貨物の價格を百とせば、第七表に於ける價格の百分比例の平均は二百となるべし。此場合に於ては、米の購買力が半減せるものなり。如何となれば、以前林檎一個に對して米二勺半、牛肉一斤に對して五合、鷄卵一個に對して五勺を要したるに、今や林檎一個に對して五勺、牛肉一斤に對して一升、鷄卵一個に對して一合を要すればなり。

交換媒介物の購買力が增減する原因が貨物側より起ることゝ、交換媒介物の側より生ずることゝあり。第六表に於ける米の購買力增加の原因は鷄卵の增加に存し、第七表の場合に於ける米の購買力減少は米其物の增加に起因せり。

又、物價の平準、換言すれば、交換媒介物の購買力に何等の變動なきにも拘らず、價格のみに變動を生ずることあり。例へば米の數量に何等の變化なきも、林檎及び牛肉の數量倍加し、鷄卵の數量は之に反して以前の半額に減少せりとせば、左の結果を呈することあるべし。

	舊價(第五表)	新價	百分比例
林檎一個	二勺半	一勺四分ノ一	五〇
牛肉一斤	五合	二合五勺	五〇
鷄卵一個	五勺	一合	二〇〇
平　均			一〇〇

勿論林檎、牛肉及び鷄卵の數量增加し、各其價格下落せば、物價の平準も亦下落すべく、之に反して各貨物の數量減少し其價格騰貴せば、物價の平準も騰貴すべし。然りと雖も、物價平準に變動なくして各貨物の價格が變動することあるを記憶せざるべからず。

以上吾人は米を以て交換の媒介物とせるに米が價格の標準として使用せらるるには最も適せるものなればなり。然りと雖も、交換の媒介物は必ずしも米たるの要なく、林檎、牛肉又は鷄卵をも交換の媒介物として使用することを得べし。されば、第四表の交換比例を基礎として算出せる林檎、牛肉幷に鷄卵が交々交換媒介物として使用せられたる場合に於ける各貨物の交換比例及び各交換媒介物が數量が倍加したるときと半減したるときの交換比例は左の如くなるべし。

林檎の倍加するとき　半減するとき

林檎	米一合	四個	八個　二個
牛肉	一斤	二十個	四十個　十個
鷄卵	一個	二個	四個　一個

牛肉の倍加するとき　半減するとき、

牛肉	米一合	二十四匁	四十八匁　十二匁
林檎	一個	六匁	十二匁　三匁
鷄卵	一個	十二匁	二十四匁　六匁

鷄卵の倍加するとき　半減するとき

鷄卵	米一合	二個	四個　一個
林檎	一個	半個	一個　四分ノ一個
牛肉	一斤	十個	二十個　五個

斯くの如く交換媒介物の數量が倍加する場合には貨物の價格は騰貴すべく、交換の媒介物數量が半減する場合には各貨物の價格は下落すべし。前者に於ては物價の平準騰貴す、換言すれば交換媒介物の購買力は減退し、後者に於ては物價平準下落す、換言すれば、交換媒介物の購買力騰貴せるなり。又、物價平準の不動或は騰落に拘らず、特種の貨物の價格が騰落することあるは上文に述べたるが如し。

或る貨物の數量が激增したる場合には其貨物と交換媒介物との間に於ける交

換の比例のみならず、他の各種の貨物との交換比例も亦影響を蒙むるものなりと雖も、此特種の貨物と交換せらるゝ物は交換媒介物なるを以て、其貨物と交換媒介物との間に於ける交換比例のみ變動するが如く見へ、其貨物と他の貨物との間に於ける交換比例の變動は人の注意を惹かざるを常とす。此變動が人の注意を惹かざるは、前述の如く、特定の貨物と他の貨物とが直接に交換せらるゝことなきを以て也。此理を明かにせんが爲め、假りに第五表を基礎として牛肉の數量が突然二倍し、夫れが爲めに牛肉の効用半減し、從つて價格も半減したりとせば、第五表は左の如く變更せらるべし。

米（第五表）

林檎一個	二勺半	林檎二十個	二勺半
牛肉一斤	五合	牛肉一斤	二合五勺
鷄卵一個	五勺	鷄卵十個	五勺

新價格表

右表に示すが如く、牛肉一斤に付以前米五合なりしもの今や米二合五勺に下落せるも、林檎及び鷄卵の價格に何等の變動なきを以て、此兩種の貨物に對する牛肉の交換比例には一見何等の變動を生じたるものなきが如くなるも、事實は之に反し、此兩者に對する交換比例は米に對する交換比例と同じく變動せるなり。是れ左表の示す所なり。

牛肉一斤 舊價格	米五合	林檎二十個	鷄卵十個
牛肉一斤 新價格	米二合五勺	林檎十個	鷄卵五個

卽ち米、林檎及び鷄卵の間に於ける交換比例には毫も變動なけれども、此三種の物品に對する牛肉の交換比例は悉く變動せり。

要するに或る特定の貨物數量が激增することあらば、其貨物が交換の媒介物として用ゐらるゝものなることを問はず、他の總ての貨物（交換の媒介物をも含む）に對する其特定の貨物の交換比例は影響を蒙むるものなりとす。唯交換の媒介物として用ゐらるゝ貨物の數量が變動する場合には、其物は直接總ての貨物と交換せらるゝものなるを以て、人の注意を惹くこと多きのみ。

五　物價平準（貨幣經濟）

前項に於て吾人は米が交換の媒介物として用ゐらるゝ場合に於ける貨物の價格と物價平準との關係を述べたりしが、今や一歩を進めて貨幣經濟組織卽ち今日世人の貨幣と名くる物が交換の媒介物として用ゐらるゝ場合に於ける貨物の價格と物價の平準との關係に論及せんと欲す。

此際に吾人は矢張り前項の第五表を藉り來り之に金なる一新貨物の一定量を加ふべし。然りと雖も、金は未だ交換の媒介物として用ゐらるゝに至らず、單に一貨物として交換せられ、金一分に付米一升二合五勺の比例なりと假定ずべし。さすれば、第五表は左の如く變更せらるべし。（金の全數量を百匁と假定す）

交換比例（第八表）

林檎一個	二勺半
牛肉一斤	五合
鷄卵一個	五勺
金一分	一升二合五勺

次に金一分に對する他の各種の貨物の交換比例を求むれば左の如し。

金一分	米一升二合五勺　林檎五十個　牛肉二斤半　鷄卵二十五個

更に金が米に代りて交換の媒介物として用ゐられたりとせば、第八表は左の如く變更すべし。（計算の簡略を計る爲めに、金の効用が金の交換媒介物として使用せらるゝに至りたるときに增加せずと假定す）

交換比例（第九表）

	金（量目）
米一合	八毛
林檎一個	二毛
牛肉一斤	四厘
鷄卵一個	四毛

若し此場に、牛肉の數量二倍せば、第九表は左の如く變ずべし。

交換比例（第十表）

	金（量目）
米一合	八毛

林檎一個　二毛
牛肉一斤　二厘
鷄卵一個　四毛

此場合に於て牛肉の價格は金四厘(量目)より二厘に下落せしが、斯くの如く牛肉の交換比例の減少せしは金に對してのみに非ずして、他の總ての貨物に對しても然るものなるを記憶せざるべからず。即ち左に牛肉の新舊交換比例を對照すべし。

	米	林檎	鷄卵 (金量目)
牛肉一斤 舊交換比例(第九表)	五合	二十個	十個　四厘
牛肉一斤 新交換比例(第十表)	二合五勺	十個	五個　二厘

若し又、他の貨物の數量に何等の變動なくして、金の數量のみ倍加或は半減せば、第九表は左の如く變ずることあるべし。

交換比例 (第十一表)

	舊比例	金倍加の場合	金半減の場合
米一合	八毛	金一厘六毛	金四毛
林檎一個	二毛	金四毛	金一毛
牛肉一斤	四厘	金八厘	金二厘
鷄卵一個	四毛	金八毛	金二毛

金の數量倍加せる場合には金を標準とせる貨物の價格が騰貴し、金の數量半減せる場合には價格が下落するは右表に示すが如し。前者に於ては物價平準騰貴し、後者に於ては物價の平準下落せり。又前者の場合に金の購買力は減少し、後者の場合には金の購買力は增加せりとも云ふ。金の數量が增加せし結果として金の購買力が減少し、物價平準が上騰するの理は現今の於ける金產出の增加の爲め物價平準が騰貴せるの事實を說明するものなりとす。

然りと雖も、吾人は未だ金が世に所謂貨幣として使用せらるゝ場合に於ける事情を說明せざるなり。如何となれば、金は吾人の假定せるが如く、實際社會に於て他の貨物の交換の媒介物として用ゐられつゝあるも、他の貨物に對する金の交換

比例は前掲の例に於けるが如く金の量目を以て言ひ顯されずして、一定量の金に對して與へられたる特種の名稱を以て言ひ表さるゝものなるを以て也。例へば、米國に於ては純金約四分を一弗と稱し、英國に於ては純金約二匁を一磅と名け、我國に於ては純金二分を一圓と稱す。卽ち米國に於ては純金四分と米貨一弗、英國に於ては純金約二匁と英貨一磅、我國に於ては純金一分と一圓とが同一の價値を有するものなり。換言すれば、米貨一弗は純金約四分と、英貨一磅は純金約二匁と、我國の貨幣一圓は純金二分と引換へらるべき性質を有するものなり。されば、米國に於て帽子一個の價格をば一弗と云はずして純金四分と云ひ、英國に於て靴一足の價格を一磅と云はずして純金二匁と稱し、我國に於て下駄一足の價格を一圓と云はずして純金二分と稱するを妨げざる也。唯貨幣法に於て一定量の純金を標準として之に特種の名稱を與へ價格の稱呼に便ならしめたるに過ぎざるのみ。

されば、吾人も今や貨物の價格を言ひ表すに金の量目を用ゐずして、我國に於て一定量の金に與へられたる名稱卽ち純金二分に對して與へられたる一圓なる名稱を標準として前掲第九表に示したる貨物の價格をば普通の貨幣にて言ひ表はし

したる代價として示すべし。（純金二分は一圓なるを以て一錢は純金二毛に相當す）

交換比例（第十二表）

	純金（量目）	貨幣
米一合	八毛	四錢
林檎一個	二毛	一錢
牛肉一斤	四厘	二十錢
鷄卵一個	四毛	二錢

次に金の數量が倍加若しくは半減せる場合に於ける貨物の貨幣價格は左の如し。

交換比例（第十三表）

	金倍加の場合		金半減の場合	
	量目	貨幣	量目	貨幣
米一合	一厘六毛	八錢	四毛	二錢

林檎一個	四毛	二錢	一毛
牛肉一斤	八厘	四十錢	二厘
鷄卵一個	八毛	四錢	二毛

金の數量が倍加するとき若しくは半減するときに各貨物の價額も亦倍加若しくは半減すること又は少くとも倍加或は半減するの傾向を有するは右表に示すが如し。右の場合は勿論各貨物の數量に變動なく、且つ各貨物に對して世人が認むる客觀的用役に何等の變化なしと假定せるものなり。實際社會に於て金の數量が二倍せるとき、各貨物の價格が倍加せざるは貨物の數量及び貨物の客觀的用役が同時に變動するが爲めなり。又假令貨幣として用ゐらるゝ物の數量に變動なくとも實際には他の貨物の數量若しくは客觀的用役又は兩者が各々異れる比例を以て變動しつゝあるものなりとす。

六　物價平準(名目貨幣流通の場合)

前項に於て吾人は金が貨幣として用ゐらるゝ場合に於ける各貨物の價格と物價平準との關係を述べたるが、今日文明國に於て用ゐらるゝ貨幣は金のみに非ずして、銀、白銅、銅、紙幣等の名目貨幣も亦併用せられつゝあれば、吾人は此等名目貨幣が物價に及ぼすの影響に對して一言せざるべからず。

銀貨、白銅貨及び銅貨の補助貨幣は一定の制限の下に金貨と同樣に流通するものなり。例へば、我國に於ては銀貨は十圓迄、白銅貨及び銅貨は一圓迄金貨と同樣に授受せらるべきものなりとす。此制限ある故に補助貨は絶對的に金貨の代用物たりと云ふことを得ず。若し補助貨にして濫發せられんか、流通上の制限あるが爲めに、補助貨の價格は勢ひ下落するに至り、十圓以上の銀貨は十圓以上の金貨と同樣に流通せざるのみならず、五圓に相當する銀貨は五圓に相當する金貨と同一の價値を有せざるに至るべし。然りと雖も、此補助貨が濫發せられざる間は此種の貨幣發行額は其額丈金貨の流通額を增加したると同一の結果を呈し、從つて其程度に於て物價を騰貴せしむべし。

紙幣は又金貨の代用物として用ゐられ、普通十圓の紙幣は十圓の金貨と同樣に流通す。されば、十萬圓の金貨の流通せる處に十萬圓の紙幣を發行せば、物價に及ぼす紙幣發行の影響は十萬圓の金貨を增鑄せると同一なるべし。即ち此場合に

は物價平準は倍加するか又は倍加するの傾向を有すべし。

然りと雖も、若し紙幣を濫發せば、卽ち正貨準備に比較して餘りに多額の紙幣を發行せば、紙幣の價格は下落して十圓の紙幣は最早十圓の金貨と同樣に流通せざるべし。紙幣濫發の歷史上の例の中にて佛國の革命戰爭、米國の獨立戰爭、米國の南北戰爭及び我國の西南戰爭の後に行はれたるものは吾人の注目に値すべし。紙幣の價格が斯くの如く金貨の價格に對して下落するときは貨物の價格は二樣となり、一は金貨を標準となし、他は下落せる紙幣を標準とす。紙幣を以て標準とせる貨物の價格が金貨を以て標準とせる價格よりも高率なるは勿論なり。又時としては金貨は最早交換の媒介物として授受せられず、單に貨物として取扱はれ、其價格は勿論紙幣を標準とす。明治三十年我國に於て金貨本位を採用せる以前に五圓の舊金貨は紙幣約十圓と交換せられたることあり。(現今我國に於て金貨の流通せざる理由は多々あれど、其中主なるものを擧ぐれば下の如し。(一)金貨の最少なるは五圓金貨にして、我國の經濟の程度には高きに失し、日常少額の購買を爲しつゝある大多數の日本人に取りて金貨は不便なり。(二)五圓の貨幣の不便ならざるときと雖も、金貨よりも紙幣の方携帶及び計算に便なり。(三)紙幣增發の爲め金貨は國外に流出するの傾向を有す。(四)日本人は明治の初年より紙幣に慣れたるを以て紙幣本位を以て自然的のものとして之を怪まず。而かも紙幣が未だ下落せずして、名目上金貨と同一の價格を保持せるは政府に對する人民の信認の厚きと、紙幣の濫發が未だ危險點に達せざるを以て也。)

當座預金も亦小切手を以て引出され貨幣の代用物として交換の媒介に用ゐらるゝものなるを以て、金貨其物を增加したると同一の影響を物價の平準に及ぼすものなりとす。現今に於ける物價騰貴の一部は當座預金の增加に歸せざるべからず。

七　結論

前數項に於て吾人は先づ交換の媒介物の性質を論じ、次に貨物の價格が決定さるゝの順序を說明し、進んで貨物の一種が交換の媒介物として用ゐらるゝ場合に於ける貨物の價格と物價平準との關係を明かにし、轉じて金貨が貨幣として使用

せらるる場合に於ける此兩者の關係に論及し、終りに補助貨幣幷に代用貨幣が物價平準に及ぼす影響の說明を試みたり。

之を要するに、或る一種の貨物の効用が變動して貨幣を標準とせる其價格が增減するときは、貨幣に對する其交換比例(價格)のみならず、他の貨物に對する其交換比例も亦同一程度に增減するものなりとす。例へば、米の數量減少して以前一斗二圓なりしもの四圓に騰貴する場合には、米の價格は斯くの如く貨幣に對してのみ增加するものに非ずして、他の總ての貨物に對しても增加するものなりとす。此後者の事實が往々にして世人の注意を惹くに至らざるは、米と他の貨物が物々交換の場合に於けるが如く直接に交換せられざるを以てなり。若し前揭の例に於けるが如く米の効用の倍加せる際に、交換媒介物として用ゐらるゝ物が金に非ずして米なりとせば、總ての貨物の價格は半減するの傾向を有すべし。

又、米のみの價格に變動に來したるときは、物價の平準の蒙むる影響は輕微なるべし。若し總ての貨物の價格が倍加せば、物價の平準も倍加すべく、又之に反して總ての貨物の價格が半減せば、物價の平準も半減すべし。又或貨物の價格騰貴し、

他の或貨物の價格下落せば、其騰落が彼此相殺し、物價の平準に何等の變動を來さざることあるなり。

次に貨幣の數量倍加することあらば、多くの貨物の價格は倍加するの傾向を有すべし。

而して其數量が半減せば、之と正反對の結果を生ずるの傾向を有するは勿論なりとす。若し又貨幣として用ゐられつゝある貨物が假りに貨幣として用ゐられず、單に一個の消費財として存在するものなりとせば、此貨物の數量が倍加するときの影響は單に其の代りに貨幣として用ゐらるゝ或る他の貨物に對する交換比例の變動に依りて現はるべし。

是れに由りて之を觀るに、一貨物の價格の變動が貨幣幷に他の總ての貨物の價格の變動を意味すること尙ほ貨幣の價格の變動が總ての貨物の價格の變動を意味するに同じ。されど、一貨物例へば米の價格變動が物價平準に及ぼす影響が物價平準に與ふる貨幣の價格の變動よりも輕微なるは左表に示すが如し。

	舊價格	新價格 米の價格のみ倍加す	新價格 貨幣の價格のみ五割下落す
米	一〇〇	二〇〇	二〇〇
林檎	一〇〇	一〇〇	二〇〇
牛肉	一〇〇	一〇〇	二〇〇
鷄卵	一〇〇	一〇〇	二〇〇
平均	一〇〇	一二五	二〇〇

卽ち米の價格のみ二倍せば、物價の平準は二割五分の騰貴を來すに過ぎざるに貨幣の價格のみ倍加するときには、物價の平準は五割下落するを見る。這は米が貨幣とのみ交換せらるゝものなるを以て、貨幣に對する米の騰貴のみ計上せらるゝに反し、貨幣は總ての貨物と交換せらるゝものなるを以て、各貨物に對する貨幣の下落が悉く計上せらるゝを以てなり。

要するに、或る貨物の價格が變動することは、貨幣のみならず、他の總ての貨物の價額が同時に反比例に變動することを意味するものなりとす。されば、其貨物の

生產又は消費と密接の關係を有するものは其變動に依りて或は利益を受け或は損失を蒙むるものなり。而かも貨幣の價格が變動したるとき、其の影響が一貨物の價格が變動せるときよりも甚大なるものあり。其理由は他なし、或る一貨物の需用供給と密接の關係を有する者は比較的少數なるに反し、貨幣と何等かの關係を有せざる者一人もなければなり。貨物の中には我國に於て萬人の需用せるもの二三なきにしも非ず。土地、家屋、米等卽ち是れなり。されば、此種の財貨の價格が上騰するときは、其影響は一般に及ぼされ、從つて人の注意を惹く點に於て貨幣の購買力の變動に劣らざることあり。されど、此種の貨物に對する一個人の支出は其の個人支出金額の一部分を占むるに過ぎざるを以て、若し變動の程度にして同一ならば、貨幣の購買力の變動が土地、家屋又は米の價格の變動よりも激しく感せらるゝは勿論なりとす。他の貨物に至りては絕對的に必要なるものなく、又假令必要なりとするも、衣服の如く、種類多くして、一種類の價格騰貴せば、他の種類を用ゆるに至るべければ、其影響は左程甚だしからざるなり。

以上吾人は價格と物價平準との間に於ける關係を說述せしが、價格決定の法則

及び物價平準騰落の法則は本篇に於て説明せしが如き簡單なるものに非ずして、實は頗る複雜なり。されど本篇の目的は主として價格と物價平準との關係を論ずるに在るを以て、此兩者其物に就きては複雜なる説明を避け、之を他日に讓るとゝせり。

雜錄

物價下落の徵候

本篇はアシレイ教授の近業『金の産出と物價』(Gold and Prices)の末節の梗概なり。本書は倫敦市の Pall Mall Gazette 雜誌の依囑を受け著者が昨年五月二十一日、二十二日、二十五日、二十六日、二十八日及び二十九日の同誌紙上に寄稿せる六篇の論文を一小冊子に纏めて出版せるものなり。本書を分ちて緒言、第一節物價指數と卸相場、第二節食料品の小賣相場と製造品、第三節原因、第四節新たに産出せられたる金が物價に影響を及ぼすの順序、第五節社會に及ぼす影響、第六節將來に於ける物價の變動となす。左に其の梗概を譯出せるは卽ち第六節なり。第一節乃至第五節に於てアシレイ教授は物價が近來著しく騰貴せるは金産出の增加に因くものなるゞ指摘し次に物價騰貴が確定せる收入を有する者に損失を釀すものなるも利潤に依りて收入を計る者に對しては却つて利益となることを説き、最後に第六節に於て物價の前途に就き左の如く論述せられたり。

前述の如く、英國に於ける千八百九十六年より千九百十一年に至る迄の物價の騰貴は商品の卸相場を取れば二十四%、食料品の小賣相場を取れば、十九%なり。されど、此騰貴の一部分は千八百九十六年以後に始まりたる商業循環期(商業は常に一盛一衰しつゝあるものにして、或る大不景氣と次の大不景氣との間の期間を商業の循環期と名く。此期間には物價は漸次騰貴するの傾向を有し、遂に或る頂點に達し、其後間もなく大恐慌大不景氣起り、物價は暴落す。)に屬する好景氣の潮流の結果たらずんばあらず。貨